

實驗上の育兒

醫學博士 瀨 川 昌 著

産婦の乳と鯉汁

▲喰べなれた食物 母親の攝取した食物が乳汁へ  
分泌されて、一々夫れが顯れるやうでは、何一つ  
喰べるにも滅多に安心は出來ません、那れを喰べ  
たら乳汁が悪くなりはせぬか、之れを喰べた爲め  
に哺乳兒が何日も機嫌が悪いのではないかと、心  
配しだすと際限のないことで、夫れが實際又反應  
ある事なら大に注意を嚴重にせねばならぬけれ  
ど、實驗上にも道理上にも爾ういふ理屈は打消さ  
れて居るから、平生喰べ慣れたものは安心してか  
喰べなさい、あれもこれも悪るからうと憂ふる事  
は却つて乳汁の細る、出の悪るくなる基となりま  
す

▲母乳の中に顯れず 先づ夫れが證據にはモルヒ  
ネの如きも一定の分量を用ゐれば夫れが母乳の中  
に顯はれるものではないのです、アルコールの如  
きも其通り母が飲んでも乳汁へ分泌されて出る事  
は容易にないので、夫れ故重複云ふやうだが平生  
普通に喰べて居るものなら何を喰べたからとて乳  
汁を悪くするやうなものはない哺乳兒の身体に害と  
なるやうなものは乳汁の中へ出て來ないと斯う心  
得て貰ひたい、素人の能く醫者に聞く事だが「小  
兒が乳汁を吐いて少しも飲まぬから、母親に藥を  
貰ひたい、母親の乳汁へ其の藥が分泌だらうから」と  
斯う云けれど今も申す通り爾う旨くは自由が利  
ぬのです、併し非常な大なる分量を與へたなら或  
は母乳へ顯はるだらうが爾んな無鐵砲なことをし  
ては母親の身体を害ふではありませんか。

▲ビールと肉食 處で母親の乳汁を充分にするには水分のある食物を澤山取るやうになさい、其上旨い滋養分を餘計に食べれば乳房に故障の無い以上は乳汁はドク／＼響て出ます、水分は乳汁の分量を増すもので、又乳汁を程よく調和するものです、水分のある食物を食べぬと乳汁が濃くなり過ぎるし、又夫れが出すぎると小兒の消化を害します、故に西洋ではビールの如き水分を要して肉類の如き蛋白質の多きものを同時に食して母親は乳汁の分量の衰へぬやうに心懸けます。

▲鯉汁と乳汁 日本では産婦に鯉汁を賞美して與へます、乳汁の出る唯一の薬は必ず鯉汁に限るやうに、昔は何んな高價を拂つても鯉を求め夫れを汁にして與へ、まだ今日でも此遺風は傳はつて居る、併し鯉の滋養が獨特に乳汁の出を良くするも

のかと云ふに、決して鯉に限つたものではない、ト云つて決して食べて悪い譯ではなく食物としては滋養に富んで居るし、汁も滋養なる味噌が原量で且つ水分が多いから澤山に喰べれば従つて乳汁の分量は増へ分泌が多くなるのです、然し昔の如く乳汁を増す薬は唯鯉汁に限るやうに思ふと誤解します。

母乳と分泌

▲出過ぎるは病的 乳汁が哺乳兒に飲み切れず、例日も餘り過ぎて母親の襦袢や着物を透してシミ／＼濡れる場合もあるし、又爾ういふ母親が随分多く世間に見受けまます、幾ら母乳は澤山なのが良いと云つても餘り出過ぎるのは宜しくありません、詰り之れは一種の病氣であります、デスういふ餘分に出過ぎる場合には何うしたのが宜からう

かゝ云ふに食物を叩へ目にする事が尤も善良なる手段で此方法が素人に出來易い安全なる良策です、乳汁の出過ぎる母親は斯くしてお試しなさいけれど極端に食物を控へ目にして身体の健康を害すやうな拙劣な方法を取つてはなりません

乳汁を出す手段 夫れから母親が身体健康で居乍ら乳汁の分泌が非常に悪いとがある、是れば全く乳腺の發育が不完全である爲めだが、斯ういふ状態であつても決して落膽し「モー逆も乳汁は出ない、不足だから仕方がない」と斷念することは非常なる不利益などであるのみか、餘りと云へば無責任な譯であります、斯く失望するよりは先づ哺乳兒にセツセと吸はする事を工夫なさい、乳汁は吸はせれば吸はせる丈乳腺の機關が微妙の功を奏し是れ迄不完全で活動せず居た部分が段々

活動して來るものです爾うして乳汁の分泌量が殖えて來て哺乳兒一人には充分飲ませられる丈になつて來る、何んでも根氣克く丹精して吸はせねば宜けません、吸せるのは即ち乳腺に刺戟を與へるからであります。

▲賣藥及精神の感動 賣藥などに「乳汁の出る妙藥」などとれいれしい招牌を出してある、是は西洋などにも斯んな賣藥は見受るが直接に乳汁の分泌を多く殖すと云ふ妙藥は古來無いので 文明の醫學上にもまだ此發明をして奏功したのは一つもない、夫れ故斯んな曖昧な賣藥などに瞞かされず前にお咄し致した通り食物の上に力を注ぐ事が何より肝腎であります尙茲に御注意して置きたいのは俄に精神の感動を與へる場合、即ち非常に驚くとか、非常に悲しむとかの場合には乳汁分泌の

上に關係するから、此の時は絞つて捨てて哺乳兒に飲ましては良くないと云ふが、是れも誠に不確な説で、是れ丈の結果が顯はれたと云ふ確然たる證據は顯し得ないので、詰り是れは唯一片の理屈に止まるもので、乳汁の成分が變化し俄に悪くなる事はないのです、併し餘り永い時日悲泣交々至るやうな所謂苦勞が續く場合には乳汁の細る事があるのです。

乳を飲せて悪い病氣

▲母乳の鑑定 善良なる母乳か、又不良なる母乳か、夫れを簡便に素人の方の鑑定出来る事は極く必要な事です、其の心得は詰り哺乳兒に母乳を飲まして害が無ければ宜い、母乳を吐きもせず、夫れを飲んだ爲め下痢もせず、哺乳兒が健全に肥満して、往けば異條のない結構な母乳と申さねばな

りません

▲飲ませて差支ない病氣 次に母親の乳汁を飲まして悪い事即ち廢乳としなければならぬ場合がある、夫れも保育上大切な事なれば能く記憶致されるやうに願ひたい、元來母親の病氣のときは乳汁を吸はせる事は宜しくないけれど、病氣と云つても種々あつて急性もあれば、慢性もある、悪性もあるが、何んでも病氣と名の付く場合は絶對的哺乳して悪いかと云に決して爾う斗りは云へない、一時急性に來た病氣なら少し位發熱があつても飲まして差支へないので、例へば人の多く胃され易い感冒とか腸胃加多兒の如き病氣に罹り急に熱の起る事があるけれど、心配せずに飲ませるが宜いソコデ万一其の母乳が悪く、哺乳兒の害になる質があれば、直ぐに夫れを吐いて收まらなないので、

斯る事實が顯はれたら直ぐに廢めてお仕舞ひなさ  
い。

▲悪性病の場合 急病なら兎に角、重い病氣で永  
く全快せぬとあれば之れは絶対に廢乳せねばなら  
ぬ、尙ほ慢性の結核、癌種、梅毒、斯くの如き悪  
性の病に胃された場合は申す迄もなく哺乳しては  
ならぬのです。

▲乳房の病氣 身体は健康でも大切なる乳房に故  
障あらば之れも廢めなければならぬ、乳房の病氣  
と云へば先づ、腫れを起すとか、凝が出来るとか  
乳首の裂瘡と云つて乳首に裂けるやうな瘡が出来  
非常に痛みを感じるものです、此裂瘡は哺乳兒に  
吸はせてる間は到底治癒りません、殊に瘡からは  
出血したり、膿を洩したりするので开んな有害物  
が乳汁へ交つたら哺乳兒は何んな害を受けるかも

知れない且つ母親も裂瘡のあるにも係らず吸はし  
て居て何時の間にか其瘡から恐るべき微菌でも喰  
入られたら飛んだ危険を醸します、ケレど吸はせ  
なければ必らず乳房が張て来るから之は必ず絞  
捨て、仕舞ふ事です (續く)

▲癩病國と美人 内務省最近の調査にかゝる青森縣下に  
於ける癩病患者の數は七百八十五人なるか此程増田譽な  
る人の實地調査に依れば第三期の癩症のみにても二千九  
百人の多數に達せりとは驚くべし同地方は人も知る如く  
容貌端麗皮膚の美はしきこと白玉の如き美人に富むは畢  
竟是が爲なりと云へど如何にや